

【第10回佐賀県豚熱対策会議】 9月2日（土）10:00

農林水産部長／昨夜から大きい豚の殺処分を開始。朝9時の作業進捗は、3,524頭。

埋却溝の掘削は1本目が完了し、殺処分した豚の埋却を始めた。2本目は、地形の都合上70mから65mに変更し、52mまで掘削した。

現地防疫作業員は261人、延べ人数は1,991人。防疫作業は、昨夜から7班体制に強化。県職員チームが3班、自衛隊が4班。

移動制限区域を、3km以内で30頭以上の飼養農場と言っていたが、6頭以上を飼養する農場に修正する。該当する7農場で確認検査をした。検査内容は、豚の健康状況を目視で確認、血液中の白血球、豚熱ウイルスの遺伝子の存在を検査。すべて陰性を確認した。今後も監視し、自営で防疫をしてもらい、新たな発生を食い止める。

1例目の埋却は昨夜21時に完了。場内の消毒等の防疫措置を実施中。

他県からの獣医師の派遣は45名から53名に増加。引き続き、近隣の福岡県、長崎県の獣医師に協力を仰ぐ。

落合副知事／殺処分は順調に進んでいる。大型豚の豚舎を担当する自衛隊は、2班から4班に作業体制を強化。

今朝から埋却を開始。建設業協会と協議し、次の埋却地を決める。

本日の最高気温は30℃の見込み。熱中症に注意し、休憩時間を確保しつつ、昼間も作業を実施する。

自衛隊／陸上自衛隊西部方面混成団から。昨日、第4師団長及び混成団長が、現地指導のため現場入り。それに伴う各種調整に感謝する。現地を直接確認し「活動中の隊員を激励できてよかった」とのこと。

現在、約200名体制で作業を実施。豚舎での作業単位を、本日明け方から修正。1個班を20名から10名とし、1個豚舎当たり2つの班で対応。効率的に作業を行えるようにした。

現在、処分後の豚が搬出口付近で渋滞し、搬出がうまくできていない。フォークリフトの増加の要望があるため調整したい。引き続き、安全に十分留意して作業する。

健康福祉部長／県職員2名に軽症の熱中症疑いがあった。

- ・30代女性。子豚の追い込み作業中に気分が悪くなり、顔面蒼白、手足のしびれを訴えた。現在は回復し帰宅。
- ・30代男性。石灰運搬作業中にめまい、吐き気を訴えていたが、現在は回復した。通常の業務を終え、現地の作業に従事。疲れもたまり、体力消耗していた様子。

現場では防護服を着て作業する。隙間がないよう密封するため、見た目より過酷。健康に不安がある場合は早めに申し出て、現場入りの順番の交代を呼びかけている。

県土整備部長／消毒ポイントは8か所。31日が91台、9月1日が84台、今日は現在まで17台。1日当たり80～90台。協会の皆さんと協力して対応している。

全県下の建設業で組織態勢を組み、埋却処分や消毒ポイントの作業に人を出してもらっている。期間が長くなるため、受注中の工事への影響を心配する声がある。県では、工期の延長など柔軟に対応するようにした。国や市町にも同様をお願いし、建設業の方々の不安を減らしたい。

知事／協力いただいている皆さんに感謝申し上げる。大きな方針は2つ。殺処分等の防疫措置がスムーズに進められるよう全力を尽くすことと、まん延防止の徹底。

豚舎を検査したところ、既に抗体豚がいた。つまり、感染後一定期間が経過している。今後、異変があれば県へ通報するシステムを徹底しなければいけない。豚熱に限らず、危機管理の鉄則は初動。異変があった際の通報システムを再確認してもらいたい。陰性を確認した近隣7か所にも通報の徹底をお願いする。

ワクチン推奨地域が九州7県となった。豚熱発生の影響が、九州7県に及んだことを申し訳なく思う。2件で封じ込められるよう全力を尽くしていきたい。

これ以上感染が広がらないよう最大限努力していく。